



さいたま 来ぶらり通信

さいたま市図書館報 2012年11月15日発行

Contents わがまち Sai 発見 さいたまの地名散策..... 1,2 本棚ぶらり 山を読む..... 4,5
図書館トピックス 移動図書館..... 3 ハロー!来・ぶら・り 与野西分館 & お知らせ..... 6



さいたま市にも、読み方が難しい地名がたくさんあります。そこで『さいたまの地名』より難読地名を挙げてみましょう。皆さんはいくつ読めますか？

地名の読み

普段の生活のなかで、読みにくい地名に出会うことがあります。その読み方がわからなかった時、少し嬉しくなりませんか？

地名の由来をひもとけば、様々なことが見えてきます。土地の歴史だったり、かつての地形だったり、住んでいた人々の面影だったり。今回は、さいたま市の地名に注目してみましよう。

わがまち Sai 発見 はっけん

さいたまの地名散策

さいたまの難読地名

- | | |
|----------|-------|
| ① 新開 | ⑨ 水判土 |
| ② 神田 | ⑩ 西遊馬 |
| ③ 道祖土 | ⑪ 指扇 |
| ④ 文蔵 | ⑫ 円阿弥 |
| ⑤ 鹿手袋 | ⑬ 釣上 |
| ⑥ 新右工門新田 | ⑭ 鹿室 |
| ⑦ 宮ヶ谷塔 | ⑮ 古ヶ場 |
| ⑧ 清河寺 | |

答えは次のページにあります。何問正解できましたか？地名の所在区と由来についても併せて説明しています。お住まいの地域の地名であればご存知でも、さいたま市10区はさすがに広く、聞き覚えがなくて難しく感じられた地名もあったのではないのでしょうか。地名とは、ある特定の地域につけられた「固有名」のため、独特な読み方をすることが多々あります。



地名の由来

普段、地名は読むことができて、該当地域を認識でき

たとえば①「新開」は素直に読めば「しんかい」と読むでしょう。同じ表記でも、新座市大和田では「しんひらき」と読みます。さらに、徳島県では「しんぱり」と読みます。また②「神田」は、山手線の駅名を思い浮かべて「かんだ」とつい読んでしまいます。

十分なはず。ですが、こうした独特な地名を前にすると、どうしてもその地名になつたの気になってきます。地名は、地形の特徴からであったり、領主や開墾した人の名前、城・寺・神社等の建造物から来ていたり、さまざま理由から名付けられました。定説とされている由来で確実視できるものもありますが、諸説あるもの、全く不明となっている地名も多数あります。

ここで紹介するのは、地名の由来を今もはっきり確認できる例です。西区の「二ツ宮」がそれです。

「二ツ宮」の地名の由来について

指扇駅から、南へ2・5kmほどの距離を行くと、馬宮中学校の東隣に神社が二つ並んでいます。境内に向かつて、



二つのお宮が並んでいる姿は迫力があります。氷川神社(左)と八幡神社(右)の本殿

左側に氷川神社が、右側に八幡神社が鎮座しており、二つの「宮」が同じ境内にあることから、村名を二ツ宮村と名づけられたこのことす。

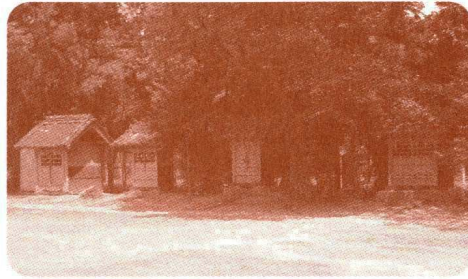
訪れてみると、鳥居が敷地内に二つあることが目を引き、新鮮に映ります。また、それぞれに燈籠、狛犬、参道もありました。境内の中ほどの手水舎(石の水槽)に「二



氷川神社(左)と八幡神社(右)の鳥居



境内に並ぶ朱色の祠



ツ宮村」と彫られているのが確認でき、地名の由来が目の前にあることを意識させます。他にも、境内に朱色の祠が複数建っており、近寄ってみると「三峰神社」、「御嶽神社」等とありました。立っている看板を見ると7つの神社が合祀されているこのことす。

ところで、上尾市にも同じく二ツ宮の地名があります。そちらは、氷川男体社と氷川女体社の二社があつたようですが、残念ながら明治時代の合祀により女体社は現存していないようです。

西区では二ツ宮の近くに、さいたま市唯一のカタカナ地名「ブラザ」という珍しい地名もあります。民間の会社が住宅街を整備する際につけた名前がそのまま地名になった例です。詳しい由来は、レファレンスサービスの事例として図書館のホームページでご覧いただけます。

トップページから、「図書館を活用する」の「レファレンス(調べ物)サービス」↓「レファレンスデータベース(レファレンス協同データベース検索)」と進み、「ブラザ」を検索してみてください。参考文献などもご覧いただけます。

さいたまの難読地名 答えと由来

- ①「しびらき」桜区。天正18年(1590年)、岩槻落城の際、その旗本が土着して一村を新しく開いたことから。
- ②「じんで」桜区。伊勢神宮の神領であったという説と、湿地だったためという説あり。
- ③「さいど」緑区。旅の安全を祈る塞の神説と太田氏の家臣・道祖土氏からの説あり。
- ④「ぶぞう」南区。明らかではないが、開発者の二階堂資朝またはその父祖の実名からか。
- ⑤「しつてぶくろ(しかてぶくろ)」南区。古入間川の流跡と鴻沼の尻にあたって出来た袋地に拓けた村落だったから。
- ⑥「しんうえもんしんでん」見沼区。享保年中(1716~1736年)大宮宿本陣の内倉新右衛門が開発したから。
- ⑦「みやがやとう」見沼区。氷川神社(宮)と湿地(ヤト)があつたことから。
- ⑧「せいがじ(せいがんじ)」西区。臨濟宗円覚寺派の清河寺があることから。
- ⑨「みずはた」西区。水畑の意味で、低地に位置する肥沃な場所であつたことから。
- ⑩「にしあすま」西区。古代の牧(牛馬を放し飼いにする場所)から来ているとの説と、荒川沿岸の低湿の狭間だったためという説有り。遊馬に「西」の字が付けられたのは明治12年、草加の遊馬(東遊馬)に対して西遊馬とされたため。
- ⑪「さしおうぎ」西区。「サシ」は日向地・傾斜地、「オギ」は崖・湿地の意味があり、湿地に続く傾斜地であつたから。
- ⑫「えんなみ(えんあみ)」中央区。岩槻城主太田氏の家臣で書記役の円阿弥の居住地または所領であつたことから。
- ⑬「かぎあげ」岩槻区。綾瀬川の曲がった形から。
- ⑭「かなむろ(かのむろ)」岩槻区。寛永5年(1628年)に開発された村で、焼畑(カノ)をする村の意味から。
- ⑮「こかは(こけは)」岩槻区。未墾地を指す「コガ」に由来。

【参考文献】

『さいたまの地名 改訂版 (埼玉ふるさとシリーズ4)』埼玉県民部自治文化振興課編 埼玉県政情報資料室 1987年
『埼玉県地名誌 名義の研究 改定新版』藤塚一三郎著 北辰図書 1977年
『さいたま地名考』石井茂著 さきたま出版会 1998年
『日本歴史地名大系11 埼玉県の地名』平凡社 1993年
『角川日本地名大辞典11 埼玉県』角川書店 1980年

青空の下、本と人をつなぐふれあいの場

移動図書館 のご紹介



平成25年1月4日に武蔵浦和図書館が開館し、さいたま市の図書館は24館になります。が、実はもうひとつ「図書館」があります。移動図書館「宝くじ号」です。日本宝くじ協会の助成金で購入した車で、図書館から離れたところに2週間に1度巡回し図書館サービスをお届けしています。

移動図書館は、本を載せるために改良した大きな自動車で、側面の扉を開けたところには実用書や小説が、車内には児童書が並んでいます。とはいえ、スペースは限られているので、載せていける本は3500冊と少なめです。

さてどんな本を載せていこうか選ぶときに大切になるのが、利用者の方との日ごろのコミュニケーション。借りにいらした方との会話のなかから、必要とされているジャンルを想定し選んでいくことで、限られた資料でも喜んでいただけるように努めています。

巡回日や駐車場の位置は、図書館ホームページまたは図書館窓口でご確認いただけます。ご利用ください。

お知らせ

武蔵浦和図書館の開館に伴い、武蔵浦和図書館から2km圏内に位置する駐車場5ヶ所（武蔵浦和・別所ハイツ・鹿手袋会館・西浦和公民館・田島団地）の巡回を、平成24年12月をもちまして終了させていただきます。長い間、ご利用いただきましてありがとうございました。ありがとうございます。

平成25年1月から、武蔵浦和図書館を引続きご利用いただけます。幸いです。

なお、1月11日・25日は今までの巡回時間で返却のみを承ります（雨天の場合は巡回中止です）。また、移動図書館各駐車場受取希望の予約資料につきましては、ご希望の図書館へ変更いたします。

本棚ぶらり

山を読む

秋から冬にかけて、
山は紅葉から雪景色へと変化します。
そんな山の様々な表情を伝える本をご紹介します。



ヒマラヤの彼方から
ネパールの商業民族タカリー生活誌
飯島茂著 日本放送出版協会、1982年



「白き神々の座」と形容される大ヒマラヤ山脈が東西に横切る国ネパール。国土は北海道の二倍程度の小国ですが、南側の水田稲作を中心としたモンスーン地帯と、北側の荒涼とした高原が広がる遊牧地帯とは、全く対照的な生活様式が営まれています。

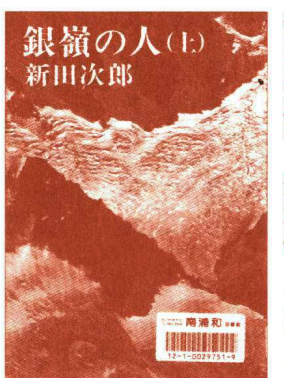
国の中央部を北から南に向かつて流れているカリガンタキ川流域の渓谷は、羊やヤギを利用したキャラバンに絶妙な交通路となつています。この深い谷間を根城としていたのが、少数民族ながら南北の仲介交易によりヒマラヤ屈指の豊かさを誇ってきた、タカリー族でした。

しかし、1959年のチベット事件により中国がチベットの支配権を握る時代に入ると、タカリー族の貿易は大打撃を受けます。故郷を離れたタカリー族は、カトマンドウなどの南方低地部の諸都市に移住してからも、往年の商業民族としての資質を生かし経済的には成功をおさめます。が、あまりにも急速な都市生活への適応は、山中に生きてきた民族としてのアイデンティティーが喪失する危機につながっていきま

す。複雑な民族構成の小国であるために、インドと中国という大国に挟まれ動静を左右されてき

たヒマラヤの国、ネパールの来歴が、タカリー族の営みを通して、よく分かる一冊です。

銀嶺の人 上・下
新田次郎著 新潮社、1975年

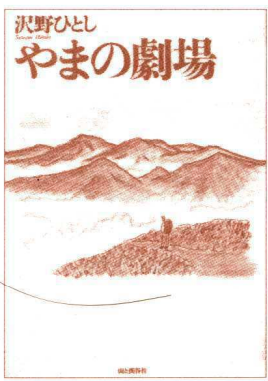


『銀嶺の人』は『孤高の人』『栄光の岩壁』(ともに新潮社)につづく、ヨーロッパ・アルプスを舞台にした新田次郎の長編の第三作です。

女医をめざす、勝気な、泣かない子、駒井淑子は、冬の八ヶ岳で単独行を試みて遭難しかかった時、若林美佐子と出会います。鎌倉彫の新鋭彫刻家として注目されていた美佐子は、無口ですぐに涙ぐみ、死を覚悟した二人を事もなげに助け出した三人の男性登山家に魅入られて、彼女たちは、ついに初の女性隊による、マッターホルン北壁完全登攀を成し遂げます。その後アイガー、グランドジョニー、ヨーロッパ三大北壁に挑む淑子、新婚山行を下リユー西壁に試みる美佐子……

医師と彫刻家、仕事を持った二人ですが、ますます岩壁登攀に青春をかけていきます。対照的な二人の女性登山家の姿を通して描かれている山への情熱。本書は、「山とはなにが、山になぜ登るか」と読者に問いかけてきます。登山に対する興味が湧いてきたら、身近な山から登ってみてはいかがでしょうか。

やまの劇場
沢野ひとし著 山と溪谷社、1999年



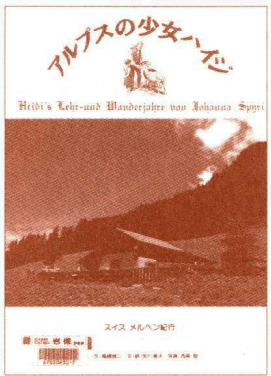
国内外の山登り紀行を中心に、18編からなる紀行文でまとめられています。「記憶に残る山」「きげんな山」「ほろかなる山」などに分類され、各編が数ページ以内で収められるなど、どこからでも気軽に読み始めることができます。

その内容は、百名山などと呼ばれる有名な山だけではなく、標高数百メートル程度の、人のあまり行かない低くて静かな山にも及んでいます。季節も春の花の時期から冬まで、また、気候も晴れだけではなく、霧や雪もあるなど、自然の山の姿をそのままに、楽しさや辛さ、その奥深さを伝えてくれています。

著者は山登りを楽しむのではなく、山旅をするのだといえます。スケッチブック持参の山旅で描かれ、随所に挿入された水彩やクレパスの絵は、楽しさであふれています。また、必ずといっていいほど絵の中心には著者と思われる登山姿の人物が描かれることから分かるように、山の自然を、旅の楽しみを客観的に描き出しています。

抜けるような青空に、雨や霧。短時間で刻々と変化する山の雲を人生にたとえ、喜怒哀楽をその著書の中に表現したこの本は、多くの山旅を重ねてきた著者の、山や人生への思いが凝縮された一冊です。

アルプスの少女ハイジ
スイスメルヘン紀行
高橋健二監修・文 矢川澄子訳・文 西森聡写真
求龍堂、1992年



『ハイジ』(福音館書店ほか)はスイスの作家ヨハンナ・シュペーリ原作の児童文学です。おじいさんに引き取られた少女ハイジが、スイスアルプスの広大な自然や山々に囲まれ成長していく姿が描かれます。日本でも1974年に放送されたアニメが大人気で、現在もCMなどでよく目にするおなじみの存在です。

本書は、『ハイジ』の舞台スイスアルプスの写真紀行です。アルムの山々をはじめ、山小屋や花畑など、ハイジが愛した風景が美しく切り取られています。大判の写真には、『ハイジ』の物語の文章も添えられています。雪を頂いた山や、緑の間から顔を覗かせる愛らしい花々の姿を見ていると、ハイジになつた気分が味わえるかもしれません。

また、作品解説や、作者シュペーリの紹介なども掲載されており、ハイジについて詳しくなることもできます。『ハイジ』を読んだことがある人も、アニメでしか知らないという人も、全く知らないという方も、本書を読んでハイジの世界を旅してみてもいいのではないでしょうか。

大人も楽しめる 絵本のせせ

第2回

花さき山
斎藤隆介作 滝平二郎絵
岩崎書店 1969年



今回のテーマは山。前回紹介したのがかなり変わった絵本でしたが、図書館員としては今度もオールドブックスな絵本を紹介したいところ。そこで今回は、多くの人の心に残るロングセラー絵本『花さき山』を取り上げてみることにしました。

山菜を取りにいき山姥に会った「あや」。一面に咲く美しい花を前に山姥は、「一つ良いことをすれば花が咲く、命をささげれば山になる」と話し始める……。

このシーンに登場する八郎や三三は、秋田の八郎瀧やオイタラ山の創生を描いた創作民話絵本『八郎や三三』(共

に福音館書店)に登場する主人公たちです。斎藤隆介と滝平二郎の絵本は、他にも数多く出版されていますが、その多くが、創作民話絵本というジャンルであり、山が舞台だったり、山の創生の話だったり、山に関わる話が数多く出版されています。誰もが認める代表作『モチモチの木』(岩崎書店)にしても、峠の猟師小屋にジサマと暮らす臆病者の豆太が、ジサマの急病に勇気を振り絞ってふもとの村の医者呼びに行き、モチモチの木に火が灯る場面(山の神様の祭り)に遭遇するという話で、実は舞台は山なのです。人々の身近にありながら、信仰の対象ともなる山。物語の舞台になるのも必然なのかも知れません。

斎藤隆介の作品は小学校3年生の国語の単元で今も取り上げられていますから、昔も今も子どもたちが良く知っているお話ではあります。しかし、絵本はやっぱり絵本で、勉強とは関係のないときに、絵と文の織り成す抜群の「コラボレーション」を楽しみながらじっくり味わってもらいたいと思います。

与野図書館 西分館

中央区のおすすめスポット・与野公園から、新大宮バイパスを渡り西へ向かって歩くと、白鷺通りへ出る手前に西与野コミュニティホールがあります。与野図書館西分館は平成4年にこのホールの2階に開館しました。

埼京線の与野本町駅から、徒歩約20分。バイパスの近くとはいえ、周囲は閑静な住宅街。ホール内の階段を上がって2階ロビーに出ると、図書館の入り口手前に、新聞・雑誌と地域広報紙のコーナーがあり、中央に置かれたソファに腰掛けながら、読みたいものを自由に楽しむことができるようになっていきます。ガラス扉から館内へ入ると、正面から右側に一般書が、左側には児童書が並んでいます。537㎡と館全体のスペースは小さいながらも、各棚では表紙を見せるように置かれた本が、「ぜひ手にとってください」と呼びかけてくるかのよう。また、窓には季節の切り紙が飾られて、彩りを添えています。

ロビーの奥にある集会室では毎月、ボランティアによるおはなし会や紙芝

居ひろば、朗読ライブを行っています。朗読ライブは、平成11年から行われている大人向けのイベント。著名作家の文学作品を中心に、じっくりと語り聴かせてくれます。地域のみなさんの憩いの場として、今年で20年目を迎えた図書館です。お近くにお立ち寄りの際には、どうぞ足を伸ばしてみてください。



幹線道路から入った
ところにあります

図書館入り口

九都県市立図書館企画展

「自慢したい風景」を 開催しました。

九都県市首脳会議に参加している9つの自治体（埼玉県、神奈川県、千葉県、東京都、さいたま市、川崎市、相模原市、横浜市、千葉市）の公共図書館が「自慢したい風景」をテーマに、企画展を9月上旬を中心に開催しました。埼玉県立浦和図書館とさいたま市立中央図書館でも、9月1日から16日まで展示を行いました。

中央図書館ではさいたま市の魅力をPR。見沼たんぼや大宮の氷川神社など、市内各所の風景を撮影した写真を展示すると同時に、関連する地域資料をあつめたコーナーを設けました。

また、出展した写真に、ソーシャル・ネットワーク・サービス「フェイスブック」で人気投票ができる企画も行いました。

県内の名所を紹介していた県立浦和図書館の展示とあわせて、地域の魅力をお伝えできる機会になりました。



人気投票では、見沼たんぼ、氷川神社、別所沼公園を撮った写真が同点でトップになりました

編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

http://www.lib.city.saitama.jp/ 携帯電話用 http://www.lib.city.saitama.jp/m/ (下のQRコードを読み込んでください)

北浦和図書館 832-2321	桜木図書館 649-5871	春野図書館 687-8301	与野南図書館 855-3735
南浦和図書館 862-8568	大宮西部図書館 664-4946	大宮東図書館 688-1434	岩槻図書館 757-2523
東浦和図書館 875-9977	三橋分館 625-4319	七里図書館 682-3248	岩槻駅東口図書館 758-3200
桜図書館 858-9090	北図書館 669-6111	片柳図書館 682-1222	岩槻東部図書館 756-6665
大久保東分館 853-7100	宮原図書館 662-5401	与野図書館 853-7816	
大宮図書館 643-3701	馬宮図書館 625-8831	西分館 854-8636	

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100

★★編集後記★★ さいたま来ぶらり通信は、今号で20号の区切りを迎えました。これからも「読んで、見て、楽しい」図書館報を目指します。

次回発行：2013年3月15日（年3回発行）

